

平成 23 年 11 月 30 日

私立大学図書館協会
国際図書館協力委員会
委員長 長島敏樹 様

亜細亜大学図書館
藤懸 徳仁

2011 年度 海外認定研修 報告書

標記の件につき、下記のとおり報告いたします。

- I. 研修テーマ : 『中華民国(台湾)の大学図書館の現状を知る』
グループ学習室や大学院生の閲覧室などの学習環境
電子書籍サービスについて
- II. 訪問先 : ①淡江大学 (Tam Kang University)
URL <http://www.tku.edu.tw/> 新北市淡水区英専路 151 号
②国立台湾大学 (National Taiwan University)
URL <http://www.ntu.edu.tw/> 台北市羅羅斯福路4段1号
- III. 訪問日 : 2011 年 9 月 20 日 火曜日
① 10:00~13:00 淡江大学図書館
② 15:00~17:00 国立台湾大学図書館
- IV. 事前準備 : 今回見学するにあたり、亜細亜大学と交換留学の提携校の一つである
淡江大学図書館を見学候補とした。国際交流課留学支援担当者から
先方の担当者を紹介頂いた。
更に、台湾の最高学府の国立台湾大学図書館を候補に挙げ、(株)紀伊
國屋書店台湾支店の担当者を通じ、見学の手配をして頂いた。
- V. 報告内容
1. 淡江大学図書館訪問
(1)資源應用指導室 (2)討論室 (3)非書資料室
(4)研究小室 (5)電子書籍について
 2. 国立台湾大学図書館訪問
(1)メディアセンター (2)自習室 (3)個別学習諮詢
 3. 所感

謝 辞

V. 報告内容

2007 年度海外集合研修で米国大学図書館を見学した際、ラーニングcommonsやライティングセンター、グループ学習室など優れたサービスを目の当たりにした。それ以来、外国の大学図書館(含;公共図書館)に興味を持ち、過去には国立シンガポール図書館を見学したこともあった。また、見学することで、現在所属する図書館の運営・改善の参考にしたいと常々考えていたこともあり、個人的なものではあるが、今回の台湾旅行をきっかけに2大学図書館見学研修を思い立った。

国際交流課の同僚や紀伊國屋書店様に協力を仰ぎ、淡江大学図書館と国立台湾大学図書館を見学した。ここでは主にグループ学習室や大学院生閲覧室などの学習環境や電子書籍サービスを中心に報告する。

1. 淡江大学図書館訪問 9月20日 10:00-13:00

<淡江大学の概要>

中華民国(台湾)新北市にある淡江大学は、1950年に張鳴・張建邦父子により創立された淡江英語専科学校が始まりで、淡水・台北・蘭陽・サイバーの4キャンパスあり、約27,500人の学生が学ぶ総合大学である。

図書館は淡水キャンパスに2館、台北分館、蘭陽分館、鍾靈分館、合計5分館があり、月曜日～日曜日まで毎日開館している。特に本館と蘭陽分館の自習室は24時間利用可能と利用する学生側の立場に立ったサービスを行っている。

今回見学した本館は1996年9月23日に竣工し、今年で15周年であった。蔵書数は約100万冊、AV資料約12万件、雑誌は廃刊や中止したものを含めると合計約11,500タイトルを所蔵している。そのうち日本語に関する資料は、図書40,249冊、AV資料2611件、雑誌430タイトル9807冊、である。専任スタッフは館長を含め44名が勤務し、1. 購入担当 2. 貸借担当 3. 利用サービス担当 4. AV資料担当 5. デジタル担当(管理システム・PC等)に総勢44名の専任職員(含:館長)が勤務する。



<写真1>淡江大学図書館入口

(1)資源應用指導室:3間(60人座・24人座・16人座)



<写真2>資源應用指導室

収容人数の異なる図書館の利用ガイダンス専用の部屋が、館内に3つある。ここでは、新入生向けの図書館利用ガイダンス、大学院生向けには利用案内の他、資料の収集方法やILLサービス、オンラインDBの紹介を行っている。教壇には1台のPC、座席数分のPCが設置され、実習しながらのガイダンスにも対応している。学生・大学院生は、希望するガイダンスをネット上から申し込み、受講することができる。また新任教員向けの講習会も行われ、基本

的な利用に関するサービスの他、授業で使用する指定図書や講習会依頼等について案内をしている。

(2) 討論室:4間

主にゼミナールやグループ等で声をだして課題や討議のできる部屋となっており、利用する際は、2階のカウンターで申請する。1週間前から予約をとることができ、一度に5人～12人で利用、最大4時間連続利用可能である。部屋内にはPCの映像を投影できる設備はないが、情報コンセントやホワイトボードが設置されている。通常の会議室とほぼかわりはない印象であった。尚、1度の利用では時間を延長することができず、10分以上遅刻するとキャンセル扱いとなる。



<写真3> 討論室

(3) 非書資料室:3間



5階には、VHSやVCD、DVDなど映像資料を視聴できるフロアがある。入口で手荷物をロッカーへ預けた後、利用可能となる。個人視聴できるブースの他、一度に最大5人収容できるグループブースが3部屋用意されている。この部屋は、3人以上から利用可能となり当日利用する時間の3時間前～1週間前までに予約をこなっている。

<写真4> 非書資料室

(4) 研究小室

7階に専任教員・大学院生・学生が研究・修士論文を作成するための個室がある。長期間と短期間利用の2タイプある。短期間用は、利用日の3日前より申し込むことができ、論文や研究報告書を作成するための専任教員と学生が利用できる。長期間用は、最大1 Semesterその部屋を専属で借りることができ、修士論文や博士論文を作成する大学院生が利用できる。



<写真5> 研究小室

(5) 電子書籍

淡江大学図書館では、2000 年から独自の電子書籍の貸出システムを運用している。ケンブリッジ大学出版やオックスフォード大学出版などから購入したものや無償提供している電子書籍を認証システム経由して利用者へ貸出を行う。利用者が借りた電子書籍ではあるが、返却する必要がないというルールで運用している。学生や教職員はキャンパス内から、学外であればプロキシ設定の環境下で利用できる。また、電子書籍の購入にかかる費用についてだが、欧米の電子書籍は紙のものと同額かそれよりも安く、反対に中国関係の電子書籍の場合は、紙のものと同額かそれ以上の価格と高いので、担当者を悩ませているとのことであった。

2. 国立台湾大学図書館訪問 9月20日 15:00-17:00

<台湾大学の概要>

中華民国(台湾)台北市にある国立台湾大学は、1928年に統治していた日本政府により設立された(前身:台北帝國大学)。文学部・理学部・工学部を始め11学部に約33,000人の学生が学んでいる。歴代の中華民国総統を務めた李登耀氏や陳水扁氏が同大学の出身者である。

大学図書館は1928年3月に設置され、83年の歴史を有する。図書館は本館の他に、法学・社会科学図書館、医学図書館、10の各研究図書室がある。中でも図書館本館は、それまでキャンパス内に分散していた図書・雑誌などの資料の管理や人的資源の効率化をはかるため、12年の歳月を経て1998年11月に完成した。蔵書数は、約380万冊、AV資料約15万件、雑誌は37,150タイトルを所蔵する。



<写真6> 台湾大学図書館

(1)メディアセンター

4階にあるメディアセンターでは、平日午前8時20分から午後9時まで、VCDやDVDなど映像資料を視聴できる。利用時には希望する映像資料をカウンターへ持って行き、利用手続きを行い、指定されたブースで使用する。またオープンスペースタイプは最大5人まで、個室タイプには最大10人まで視聴でき、37インチ液晶テレビ、Blu-ray対応のプレーヤー機器等、大学の図書館とは思えないほどの環境が整えられている。



<写真7> 視聴室・個室タイプ(HPより)

(2) 自習室

地下1階には24時間開放している自習室がある。利用する際、職員証や学生証を自習室管理システムに通して、座席指定をして入室する。退室時は同管理システムにて、完全退室か一時退室のいずれかを選択できる。一時退室の場合、継続して同じ席を利用することもできるので、荷物を自分の席に置いたまま退席できるため、利便性が高い。利用人数や空席状況が即時にわかる、優れた管理システムである。またこの自習室は、通常の利用時間は午前8時から午後10時半までであるが、深夜(午後10時半から午前8時まで)の利用者については警備会社から派遣されている警備員が利用者を寮や大学の門まで送るといふ、防犯面にも配慮した運営システムとなっている。



<写真8> 自習室管理システム(退室)

(3) 個別学習諮詢

自習室の反対側に個別学習諮詢という部屋がある。ここはチューターと呼ばれる優秀な学部生または大学院生が、授業の疑問点や学習の問題点を一緒に解決してくれる場となっている。利用者は2週間前から予約が可能となり、1回最大2時間となっている。科目は一般の物理や化学、統計学、経済学、英文、日本語などである。



<写真9> 個別指導の様子(HPより)

3. 所感

両大学図書館の総体の印象は、伝統的な図書館であるということだ。図書の貸出・返却、様々な資料の開架、教員や大学院生向けの個室やグループで討論できる学習室など、従来型の図書館であった。

しかし、自習室が図書館と同じ建物に併設されている点は特筆すべき点である。日本の大学でも、国際教養大学や京都大学のように、図書館の24時間開放や自習室を設置している大学は散見されるものの、一般的には図書館がキャンパスの中心、また在学生の動線上に設置されている大学が多い。図書館と同じ建物内または付近に自習室が設置されていることは、利用する学生にとって大変便利であり、且つ24時間開放ということであれば、勉強・研究できる機会が増える。さらに就職活動等でその時間の確保さえも困難な現在の大学生にとっては、短時間で効率よく勉強できる環境と言えるのではないか。特に部屋を独立させた環境であれば、尚更である。一方で、開放時間が深夜若しくは24時間ともなれば、防犯面に関する対応の検討が急務となるであろう。大学としても人件費・光熱費等の増加との兼ね合いを考慮しながら、より良い図書館環境の整備を検討する時期なのではないかと感じた。

2007年度海外集合研修で米国ワシントン大学図書館を見学した際は、これからの図書館は個

人で学習する場所からグループで研究・議論する場所へ、コンピューターヘルプデスクとレファレンスデスクを同じカウンターに設置したラーニングcommonsへと変化していきたく実感した。現在所属する大学図書館でも、従来の個人での学修に加え、ゼミや授業などのグループ単位で課題やレポートの作成、プレゼンの練習を行う利用者が増えてきた。今後もその傾向に変化はないと思う。訪問した両大学図書館は、討論室やメディアセンターなどグループ利用者への対応は当然であり、それに加えて学生・大学院生や教員へ長期間研究の為に個室を貸出たり、チューターによる個別学習指導など、個人に対して充実したサービスを行っている印象を受けた。

時間の制約もあり、主に学習環境についての報告となったが、基本的には、ハード・ソフトの両面から見ても日本の大学図書館ともあまり大きく変わらないことから、まずは大きな設備投資等をせずに図書館環境をどのように活用するかという考え方を考えることで、より充実した利用しやすい図書館に変えていきたいと考えた。今回の2大学を見学することによって、その実現に向けての色々なヒントや施設・サービスが多々あった。現地にて肌で感じたことを今後の業務に活かしていきたいと思う。

謝 辞

淡江大学図書館訪問では、通訳して下さった淡江大学国際交流の紀淑珍さん、案内と業務説明をして下さった図書館員の丁紹芬さんと張素蓉さん、台湾大学図書館訪問ではアポイントメントと通訳においては紀伊國屋書店台湾支店の石堂様と陳様、図書館案内の黄さん、皆様に心から感謝申し上げます。

以上

<参考文献>

- ・淡江大学図書館 <http://www.lib.tku.edu.tw/index.htm> 2011/10/25
- ・台湾大学図書館 <http://www.lib.ntu.edu.tw/> 2011/10/25
- ・台湾大学統計 <http://acct2010.cc.ntu.edu.tw/> 2011/11/25
- ・台湾大学図書館ハンドブック 2010年9月(三版)
- ・2007年度私立大学図書館海外集合研修報告書
- ・朝日新聞 2008年10月20日朝刊 教育1 P19